



(写真下段左から2人目が川野輝之さん)

川野 輝之(かわの てるゆき) 1984年大阪府生まれ。高校卒業後、中古の農業機械などを海外へ輸出する貿易商社に入社。2007年に中古家電製品を海外に販売する会社を起業し独立(入来町)。翌年(K&K(現社名)に社名変更し、自社での輸出や販売を展開。2011年本市水引町に本社を移転。国内の使用済家電製品や農業機械などを川内港からアジア圏に輸出を開始。代表取締役社長。28歳。

海外に販路があることもあり、社としての決断や判断を迫られる場面も多い。当然に迷うこともある。そんな時に必ず立ち返るキーワードがある。経営方針にもしている「誰からも愛される会社になる」「この業界を変える」「仕事を楽しく」「常に感謝する」「目標は必ず達成する」これらの項目に照らし

最後の決め手は「人」

後、再び市場に流通させている。海外との取引に携わったのは18歳の時。高校卒業後入社した会社が、国内で出た中古農業機械の海外輸出を手掛けていた。上司と共に商談のため海外の取引先を初めて訪れたとき、薄汚れたシャツを着た現地で働く年配の日雇い労働者が声を掛けてきた。日本では使わなくなった機械でもここでは現役であることを話し終えると、握手され丁寧にお礼を言われた。「この仕事があるから家族と生きていける。アリガトウ、ニッポン。アリガトウ、カワノ」。それまで、仕事として淡々とこなしていた海外市場への流通の先にそんな光景が広がっていたことを知り、仕事へのやりがいと誇りを感じた瞬間だった。そしてこの業界(リサイクル業やリユース業)をリード出来るような会社をいつか創りたいと思った。

今でこそいいイメージを持たれつつあるこの業界だが、ひと昔前は違い、商品によっては倒産品などを取り扱うこともあり、暗いイメージもあったという。業界をリードすると共に業界全体の更なるイメージアップも図りたいと、今日も社長自ら社員の先陣をきって現地に足を運ぶ。

夢は、現在自社商品(リユース商品)衣類、農業機械、家電などを購入した海外のエンドユーザー(最終消費者)から出される「ゴミ」となっているモノの更なるリサイクル化。海外で再び使用されたさまざまな商品もいずれば現地で「ゴミ」となってしまっている。それを自社で回収し更に再資源化することで、ひとつの大きなサイクルとして繋がらせないかと想いをはせる。

輝創 情熱

ひとのチカラ

このコーナーでは、夢に向かって情熱を持ち続けながら、明日の薩摩川内市を創る、元気人、輝き人のこれまでとこれからを紹介します。

第5回は、川野 輝之さんです。

国内における消費後の製品の再資源化率は、例えば車は95%、衣類にいたっては26%程度というのだから、単純に考えた場合お気に入りの1着も着古したあと大半は家庭のごみ箱行きとなり、その役目を終えているということになる。「捨てればそれで終わってしまうが、きっちり仕分けし修復して、ニーズに合わせて国内、海外に流通させればモノに再び価値が生まれる」。人が消費した後のあらゆるモノを「ゴミ」と言いたくないという川野さん。県内で使用済の廃家電や農業機械、衣類などを収集し、自社工場で品目ごとに分別。品目によつては海外工場にて仕分けし修復

生かせば新しい価値が生まれる

後、再び市場に流通させている。

海外との取引に携わったのは18歳の時。高校卒業後入社した会社が、国内で出た中古農業機械の海外輸出を手掛けていた。上司と共に商談のため海外の取引先を初めて訪れたとき、薄汚れたシャツを着た現地で働く年配の日雇い労働者が声を掛けてきた。日本では使わなくなった機械でもここでは現役であることを話し終えると、握手され丁寧にお礼を言われた。「この仕事があるから家族と生きていける。アリガトウ、ニッポン。アリガトウ、カワノ」。それまで、仕事として淡々とこなしていた海外市場への流通の先にそんな光景が広がっていたことを知り、仕事へのやりがいと誇りを感じた瞬間だった。そしてこの業界(リサイクル業やリユース業)をリード出来るような会社をいつか創りたいと思った。



て、今自分はどう動かなければいけないのか。自問自答し決断する。20人いるスタッフの相談も仕事、プライベートを含め気さくに聞き、アドバイスすることも。「商談もそうですが、始まりはメールだとしても直接顔を合わせて言葉をお話し、分かり合えた時にビジネスパートナーとなる。言葉や人種が違ったとしても、最後の決め手は人となんです」。優しくゆっくりとした口調で語る。

行こうよ図書館へ

薩摩せんだい図書館フェスタ開催

幼児から大人まで幅広い市民の皆さんに、図書館に親しんでいただくため、図書館フェスタを開催します。市内各区域で読み聞かせなどの活動をされている読書グループの皆さんによる実演・活動発表。クリスマス工作・図書館クイズなど、図書館の魅力、本の魅力が満載のさまざまな催しを行います。気軽に、お越しください。

- 【時】12月2日(日)13時から
【所】中央図書館・中央公民館
【内容】
▼ステージの部
読書感想文コンクール表彰式
読書グループによる実演発表
展示・活動の部
読書グループの活動紹介、おすすめ図書紹介、クリスマス工作、子ども映画会、リサイクル本の提供
【入場料】無料
【問合せ】中央図書館



中央図書館・分館で「おはなしひろば」を定期開催中

中央図書館および分館では、子どもの読書活動を推進するため、児童・幼児とその保護者を対象に、「おはなしひろば」を左記のとおり開催しています。各区域の読書グループなどと連携しながら、独自の風土や特色を取り入れた読み聞かせやわらべうたなどを行いますので、ぜひ、お出でください。

Table with columns: 図書館名, 曜日, 時間, 備考. Lists activities for Central Library and various branch libraries.



上甌分館から

今月のおすすめ本

Book recommendations section featuring '絵本' (Picture Books), '児童書' (Children's Books), and '一般書' (General Books) with titles like 'りんご畑の12か月', 'ありがとうっていいもんだ', and '幸せの条件'.

お知らせ

定期子ども映画会
【時】11月17日(土)14時から
【所】中央公民館3階 和室
【内容】子ども向け映画の上映
①サンタさんは大いそがし
②14匹のやまいも
③オズの魔法使いの交通安全の旅
【対象】小学生以下
【定員】先着50人
【入場料】無料
【問合せ】視聴覚ライブラリー(中央図書館内)
☎(23)3542

各図書館の休館日と開館時間

中央図書館
【休館日】毎月第4木曜日(17時~21時は開館)
【開館時間】8時45分~21時
【各分館】
【休館日】毎月第3日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)
【開館時間】9時~17時15分

子どもと一緒に読書の日
23日は
一問合先
中央図書館 ☎(22)3542
樋脇分館 ☎(38)0009
入来分館 ☎(44)3111
東郷分館 ☎(42)0053
祁答院分館 ☎(21)8755
里分館 ☎(3)2958
上甌分館 ☎(2)0001
下甌分館 ☎(7)0311
鹿島分館 ☎(4)2211